

トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群の 更なる資源管理の推進への課題

【資源の概況】

- ・トラフグの資源量と再生産成功率は、資源評価が始まって以来の最低値。
- ・いずれも2005年以降低下傾向が現在まで続いている。
- ・瀬戸内海の産卵場における産卵率が非常に低い状態にある。

【資源管理の現状】

- ・資源管理の取組は日本海側が先行しており、広域漁業調整委員会指示の下で再放流などが実施されている。
- ・瀬戸内海では、地区ごとに管理の取り組みの深掘りを進めてきたものの、近隣県との足並みが揃っていない。

【資源評価・調査の現状】

- ・資源評価結果が当初評価、再評価、再々評価で大きく変動する。
- ・産卵場由来の把握、産卵回帰の実態に明らかでない部分が残されている。
- ・漁業者（特に外海）の感覚と、資源評価結果が乖離している理由が不明。

【資源管理体制の現状】

- ・詳細な漁獲情報を始め、必要な情報が関係者全体に共有されていない。
- ・資源評価結果・調査結果に対する関係者の理解の醸成が進んでいない。
- ・地域によって当事者の参加を促す体制づくりが遅れている。



今後検討すべき課題

漁業者

例えば、
・体長制限の設定・引上げ

→○cm未満は再放流
→Xcm未満は▲トンまで

など

行政

例えば、
・各種情報共有の推進
・資源評価・調査結果の補足説明の充実
・作業部会の参集範囲の充実

など

研究

例えば、
・現在の環境下での目指すべき目標の設定
・漁業者の感覚との乖離を埋める調査の実施

など